

2019年度 学校評価

重点取組分野	2019年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	9年間の連続した学びの中で、基礎的な知識及び技能の習得を基本に、主体的に学ぶとする児童生徒を育てるために、授業研究を小中合同で行います。各教科で言語活動を取り入れ、授業を互いに参観し、情報を交換していきます。一人ひとりの生徒の学ぶ意欲をいかに高めるかを課題として主体的な深い学びの方法を研究していきます。	基礎学力定着と、主体的な学び実現のため、学習目標と本時のまとめを提示し授業を行った。小中で研究授業を行い協議会で意見交換した。学ぶ意欲を高める授業をめざし、教員の授業力を高める研究を重ね、指導方法を工夫していききたい。	B
豊かな心	人権意識の育成のために道徳の授業を充実させ、各教科、領域、行事でも関連して指導します。また、人権講演会や人権標語コンクールを実施して、豊かな心の成長につとめます。子どもの実態にそくした教材を吟味し活用していきます。全校級の道徳授業公開を年1回実施します。	道徳の授業を充実させ、各教科、領域、行事でも指導することができた。人権講演会や人権標語コンクールを実施して、豊かな心の成長を促すことができた。道徳の授業のさらなる充実のために、公開授業や研修会等を行って、道徳の授業について考え、語り合う時間をとりたい。	B
健やかな体	新体力テストの結果を生徒各自が考察し「一人一実践体力向上プログラム」を作成し、自らの生活の中で実践していく態度を育てます。また、保健体育の授業開始時の準備運動において、体づくりのトレーニングに全員が取り組み、体力の向上を図ります。体育大会に向けた屋休みの大縄や、リレーの練習を通して、集団行動や運動技能を身に付け、体力の向上を図ります。	保健体育の体育分野では、授業の中での体カトレーニングや各単元の特性に合わせた運動を行うことで体力の向上を図った。保健分野で、体力向上に向けて知識を深め、日常生活に活かしていけるようさらに工夫し、個々の体力への関心をさらに深めていききたい。	B
生徒指導	生徒との関わりを大切に、生徒理解に努めます。特に教育相談については、全生徒の抱える状況を把握します。また各家庭との連絡を密に行い、協力関係作りを努めます。職員間での情報共有を図り、全職員で全生徒を見守ります。さらに、PTA活動や学地協働事業等を通して、生徒の健全育成のために保護者、地域との組織的な連携を図ります。	生徒の活動場所に職員がいることを心がけた。家庭連絡を密にすることで協力関係を築くことができた。定期的な職員の情報共有の場をふやし全職員で全校生徒を見守る雰囲気できた。生徒の安心感と信頼感につなげるため、生徒、保護者との更なる共通理解が必要だと感じた。	B
キャリア教育	自己のキャリアプランの立案にむけ、必要な情報を取捨選択し、整理して活かしていく事前学習を計画します。特に2年生の職場体験では、働く現場を想定したマナーの習得や体験先で求められる活動のロールプレイを通してキャリアへの知識を深め、勤労観や職業観を培います。	キャリア学習を活用し、職業間の関連や専門性などを具体的に学ぶことで、実際の現場で求められる能力について考えることができた。しかしながら、その活動を次年度や他教科と結びつけることができず、キャリア学習期間以外での取組に温度差が見られる。	B
地域連携	学校行事をサポートしたり、校内環境を整えたりする保護者のワンデーサポーター活動を活性化させます。地域連携においては、鯉のぼりフェスタ、スポーツ交流会、もちつき大会などに生徒が自主的に参加できるように工夫し、生徒、職員の地域との交流を深めます。また、学校HPや学校便りによって、保護者や地域に積極的に情報の発信を行います。	学校行事のサポートや校内環境の整備で、保護者のワンデーサポーター活動を活発にすることができた。地域連携においては、生徒が自主的に参加することができ、地域との交流を深めることができた。情報発信については、学校HPの積極的な活用が課題となった。	B
いじめへの対応	誰もが安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりのためにY-Pアセスメントを活用します。また、教育相談やアンケートで、生徒がSOSを発信しやすい仕組みや環境づくりと維持に努めます。いじめと思われる事態が発生した場合には、組織的な情報共有と対応によって迅速に問題解決ができるようになります。	誰もが安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりに努めることができた。教育相談やアンケートで生徒のSOSをキャッチし、組織的な情報共有を実践することで、生徒に寄り添った指導と迅速な問題解決につなげることができた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチームを組織し、リーダーを中心に年間計画を作成・研修テーマに沿って自主的な研修活動を推進するとともに、ステージ3の教職員を助言者や講師に引き経験に基づく実践的な研修を進める。 ②学校閉庁日、留守番電話、毎月の定時退勤日を設定することで、働き方改革を計画的に進める。	経験年数の少ない教職員を中心に自主的な研修活動を年間を通して計画的に推進してきた結果、中堅職員やステージ3の職員の積極的な参加がみられ、テーマに沿って充実した研修が行われた。閉庁日、課業時間以降と休日の留守番電話設定等が、機会あるごとに保護者・地域にも周知され十分な理解に結びつきつつある。	B
ブロック内評価後の気付き	7月に中学校での研究授業と協議会を行い、中学生の学習の様子を見てもらうことができた。2月に小学校での研究授業と協議会を行い、児童の学習活動の様子を知ることができた。研究協議会では、「児童・生徒の主体的な学びを中心とした言語活動の推進」をテーマに意見交換をし、小学校と中学校の学習内容の接続や、目指す資質能力について理解を深めることができた。8月の研修会では、「児童虐待への対応」について、講演会及びロールプレイを行い、組織として児童・生徒に対応することの大切さを、確認することができた。		
学校関係者評価	本年度も、学習、生徒指導、学校行事、地域行事への参加などを通し、落ち着いた学校経営が行われていることがうかがえる。地域の生徒たちの様子を見ていて、生徒指導の充実やいじめ再発防止に向けて、全職員がチーム舞岡として取り組んでいることが感じられる。次年度も、現在の学校の体制を維持・発展できるように取り組んでいってほしい。		
中期取組目標振り返り	今年度の学校経営評価アンケートの結果(生徒・保護者)と職員・学校関係者(地域)から、学校経営中期取組目標は一定の評価を得ることができ、おおむね達成したと考える。来年度の新学習指導要領完全実施に向け校内研修の充実と教科会議の連携を図り、わかる授業づくりとともに新しい評価の研修を計画的に進めるよう準備する。不登校・いじめに関しては今後も未然防止を常に意識し、生徒に寄り添った丁寧な指導を学校全体で組織的に進めていく取り組みを継続していく。		